



要点

1

どんな事実をどのようにとらえたか

難易度 ★★★

- 1 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

夕方、次々と街中から集合してくるカラスたちは、広い緑地内のどこでどのようにして眠りにつくのであろうか。明治神宮の場合、夕方飛来するカラスを調べてみると、一旦は周辺の落葉樹などに止まり、時には数百羽で一斉に上空に飛び立つたりしてデモンストレーションを繰り返す。そして、日没^{にちぼつ}間に、次々とその夜の止まり木へと飛び込んでいく。薄暗くなつた時刻に、全身真黒なカラスが

鬱蒼とした樹木の中に飛び込んでゆくのであるから、よほど注意して見ていないと飛び込む先がはつきりしない。しかし、方向としてはいずれもシイやカシなどの照葉樹林^{*しょうようじゅりん}の高木の中である。

- 2 そつとカラスの飛んでいった後を追つてみる。樹高^{こう}一、三十メートルを越える

高木ばかりがまとまつて生えている場所に、数十羽のカラスの潜む気配がする。

大きなライトで照らしてそつと見上げてみると、^①樹冠^{*じゅかん}に近い小枝に黒い鳥のシルエットが見える。樹木の相当高い場所に止まっていることがわかった。

しかし、それもほんの数分のことであつた。たちまちわれわれの接近を感じとり、飛び立つてしまつた。何羽ものカラスがカアー、カアーと薄氣味悪い声で鳴きながら、すでに日が落ちてすっかり暗くなつた夜空を旋回^{せんか}する。飛び立つた群れはおよそ二、三十羽くらいである。やがて數十メートル先の照葉樹がこんもりとまとまつて生えている樹木の中にバタバタと翼を枝にぶつけながら飛び込んでいく。そこで、カラスの飛び込んだと思われる樹木にそつと接近していく。すると、最初は樹木に止まつてゐる姿をかいま見ることが出来たのに、すぐに警戒心^{けいかいしん}を増し、人の接近を事前に察知して飛び立つてしまう。他の場所に潜んでいるカラスの群れもまた、警戒して人を寄せつけないのである。一ヵ所で飛び立つたカラスたちのざわめきによつて、明治神宮でねぐらをとる数千羽のカラスの全群が、いま怪しい人がねぐら内に侵入しているという情報を入手して厳戒態勢に入つてゐるかのようである。

- 4 カラスの集団ねぐらの選定条件として人の立ち入らない緑地の樹木の存在をあ

確認問題 記録文・報告文を読む

学習した日	□
() 分	
学習した日	□
() 分	

げたが、中でも常緑樹を利用することが多い。冬季にも落葉せず、姿を隠したり寒さを防ぐのに有効だからであろう。明治神宮内を一巡して分かつことは、パチ状に分散している常緑樹のあちこちに、数十羽ずつ分散してねぐらをとつていてある。馴れてくるにつれて、カラスの潜んでいそうな場所の見当がついてくるようになる。こんもりとした常緑樹の生える場所に接近すると、案の定バタバタと夜空に飛び出てくる。^②常緑樹の高所の枝付近^{かしきぶうきん}であれば、上空からも、また地上からも発見され難い。実によく考えられた場所をねぐらに選定している。

(唐沢孝一「カラスはどれほど賢いか」)

*照葉樹林^{じょうようじゅりん} = 常緑広葉樹林

*樹冠^{じゅかん} = 樹木の枝や葉の茂つてゐる部分

- (1) この文章は、何の調査の内容を記したものですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 明治神宮内の樹林 イ 明治神宮内の鳥の種類
ウ カラスのねぐら ウ カラスの警戒心

- (2) ——線①「樹木の相当高い場所」とありますか、具体的にはどんな所ですか。文章中から七字で書き抜きなさい。

- (3) ③段落を、「事実」とその「解釈」とによつて前半・後半に分けたときの後半の初めの五字を書き抜きなさい。

--

(4) ——線②「常緑樹の高所の枝付近」をねぐらに選定することは、カラスにとってどんな利点があるのですか。④段落全体の内容をふまえ、一点点に分けて書きなさい。

要点2 文章の組み立て

難易度 ★★

(長谷川博 「渡り鳥 地球をゆく」)

要点

- ① 次の文章を読んで、あととの間に答えなさい。

① 海鳥というのは、鳥の種の数で言つて全体の約3%です。大半は地球表面の三割の陸地にすむ陸鳥です。もともと鳥は陸にいたはずで、それが海に進出して行つたわけですね。その過程で、どういうふうに適応し、特殊化していくかとい

うのは、生物学的にはおもしろいテーマです。(中略)

- ② 繁殖期に島でカンムリウミスズメを見ていて、非常に印象的なできごとがありました。カンムリウミスズメのヒナは、五月上旬に誕生するのですが、孵化して一日か二日の本当に小さいヒナを、親鳥が岩場の高いところにある巣穴から誘導して、海に連れ出すのを、僕は見たんです。ヒナは小さくても足は大きく、小さいネズミのようにすばやく歩くことができます。真夜中、暗闇の中を、両親が相前後しながら、二羽のヒナを鳴き声で誘導するのです。昼間地上を歩くとヒナも親もカモメ類やハシブトガラスなどに食べられてしまいます。

- ③ 僕は、懷中電灯で親子を弱く照らして見ていました。ちょっと迷子になるとヒナがチーチーと高い声で鳴く。そうするとそれに対して親が声で識別しながら鳴き声を発しコミュニケーションしている。三〇分ぐらいかかると海のそばまで連れて行つたんですが、最後にちょっと高い岩棚があつて、そこからヒナが二メートルくらい、落ちてしまつたんです。下は岩です。ヒナはしばらく震えていました。僕は死んだかと思ったのですが、ちゃんと生きていきました。二羽とも落ちました。親鳥は先に海に出ていて、ピジユリ、ブジユツ、ジユイジユイなどと鳴いてヒナを呼びます。するとヒナはチーチーと鳴いて応答し、鳴き声はだんだん大きくなります。ヒナは海がこわいからなか行かないんです。躊躇してい

るような感じです。親鳥は海のほうから誘うんです。そのうち大波がザーッときて二羽のヒナを白い泡で包みこんでさらつていきました。どうなつたかなと思つたら、沖からチーチーという声が聞こえるんです。ヒナが無事に海に出て、泳ぎ、親鳥のところにたどりついたようでした。

④ あのときは感動しましたね。小さな、小さなヒナが、はじめて海に出て行く。それは、ちょっと情緒的すぎるかもしませんが、陸に棲んでいた鳥たちが、はじめて海に乗り出して行くところを再現して見せられているような光景でした。

*適応 = 生物が、環境にふさわしいように自らの習性や姿かたちを変えること。
*カンムリウミスズメ = 小形の海鳥。千島・朝鮮などの孤島に繁殖する。

- (1) この文章で、筆者が実際に観察したことがらを具体的に記している段落はどうですか。二つ選び、段落の番号で答えなさい。

段落 段落

- (2) この文章で、筆者は観察したことをどのように書いていますか。あてはまるものを次の二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の目や耳でとらえた様子をそのまま伝えるように書いている。

イ 特別な道具を使って数値を調べ、その変化を詳しく書いている。

ウ おおむね時間の流れに従つて、できごとの起きた順に書いている。

オ できごとの結果を先に、原因となつたことがらをあとに書いている。

- (3) この文章の構成は、おおむねどのようになつていますか。次の中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 序論——本論——結論
イ 結論——本論——結論
ウ 序論——結論——本論
エ 起——承——転——結

- (4) この文章で、筆者が読み手に伝えようとしたのはどんな「感動」だと考えられますか。七十五字以内で書きなさい。

段落